

## 冷肉サンド

わが国でスナック（軽食）の代表になったサンドイッチ。このサンドイッチは、十八世紀、イギリスはケント州の四代目サンドイッチ伯爵によって発明（というよりも偶然？）されたものであるが、それが文献に登場した最初のもものは、一七六五年ごろ、ロンドンに住んでいたグロスリーという人の『ロンドン』という本の中である、といわれている。そして、サンドイッチという名前とともに、ここで注意しなければならないのは、「ゴールドビーフ」つまり「冷肉」が当時の上層階級の間で愛好されていたらしいことである。

とまれ、第四代サンドイッチ伯爵、つまりジョン・モンタギュー（一七一八～九二二）は、一七三九年に上院議員となり、数々の要職につき、海軍長官を二度務めたほどの有能の士で、アメリカ独立戦争の際にも海軍長官としてアメリカまで遠征している。しかし、議員生活の後半、ワイロを受け取って政界を揺さぶる汚職事件により、辞職に追い込まれた。また、非常なトバク好きで、中でもトランプを手にしたら三度の食事もそっちのけ、だったと。



第4代サンドイッチ伯爵

その彼が、ある時、一昼夜ぶっ続けてトランプをめくったり、張ったりしたというわけで、マニアといっても、二十四時間なにも食べないのではスタミナ切れで勝負もおぼつかなくなる。そこでトランプ台のわきに食事をもってこさせた。が、それを食べるのにゲームを中断させるのは惜しいとあって、二枚のパンの間に“ゴールドビーフ”をはさんで、むしゃむしゃやりながらゲームを

続けた、というのがサンドイッチの由来だと。

バクチ・マニアの発明はいいとして、二枚のパンの間にはさんであつたのがなぜ“ゴールドビーフ”であつたか——当時、上流がゴールドビーフを特に愛好したのは、味覚の好みばかりでなく、それ以上に長寿が保証されると信じていたからである。と知れば、いかにもこれはイギリス的でおもしろい。